



TITLE:

# 印象深いスライドを作ろう<レポート執筆講座 (Power Point) >

AUTHOR(S):

呉, 江城

---

CITATION:

呉, 江城. 印象深いスライドを作ろう<レポート執筆講座 (Power Point) >. 2019: 1-19

ISSUE DATE:

2019-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/254158>

RIGHT:

# 印象深いスライドを作ろう

附属図書館LSD 2019. 6. 25

教育学研究科 D1 呉 江城





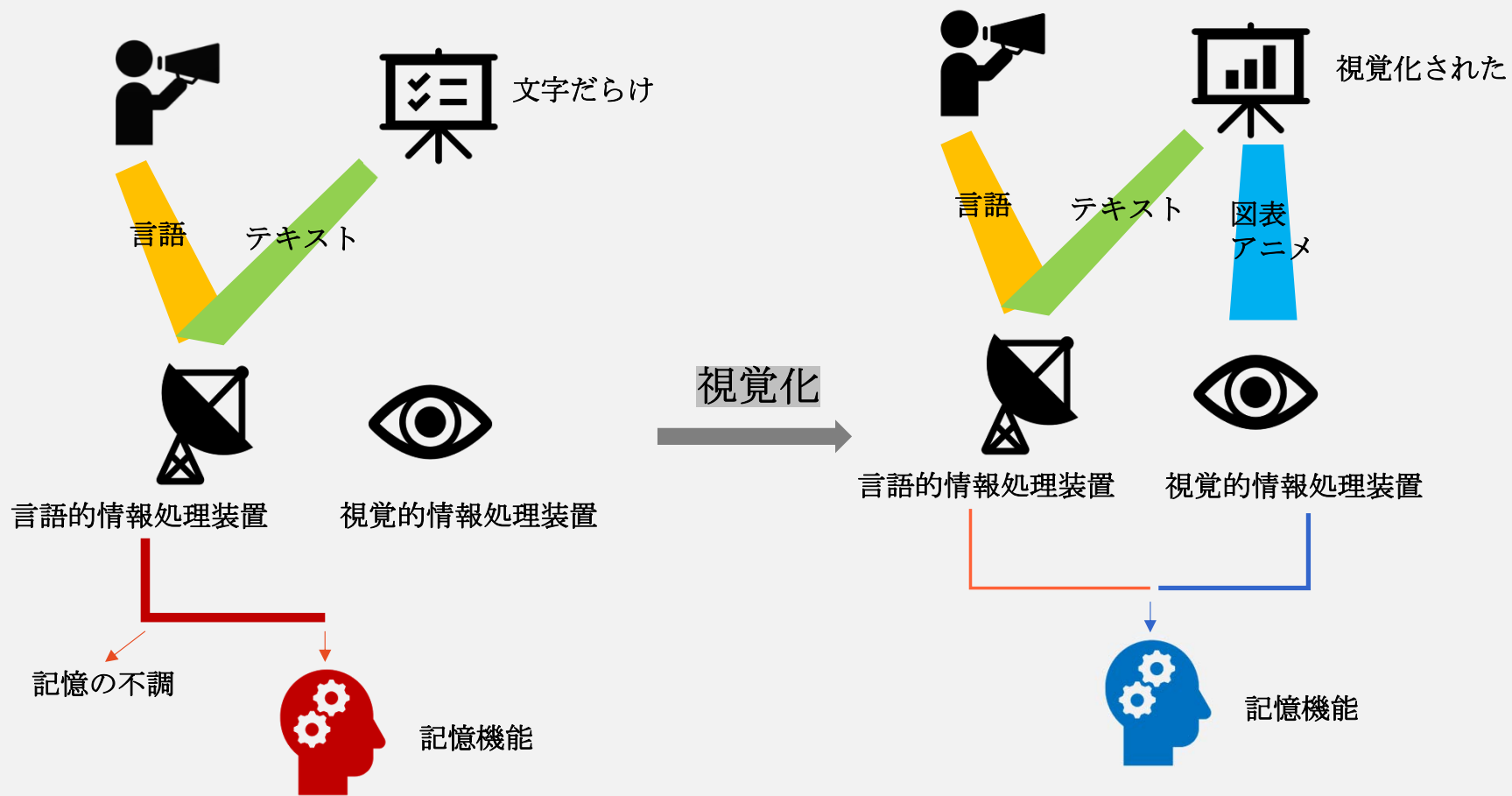
# 目次

- 1 スライド利用の原則
- 2 図表などの活用
- 3 レイアウトの工夫

# 1

## スライド利用の原則

# 1 パワポを原稿として扱わないこと



## 2 パワポを一つのシステムに統一すること

フォントの統一

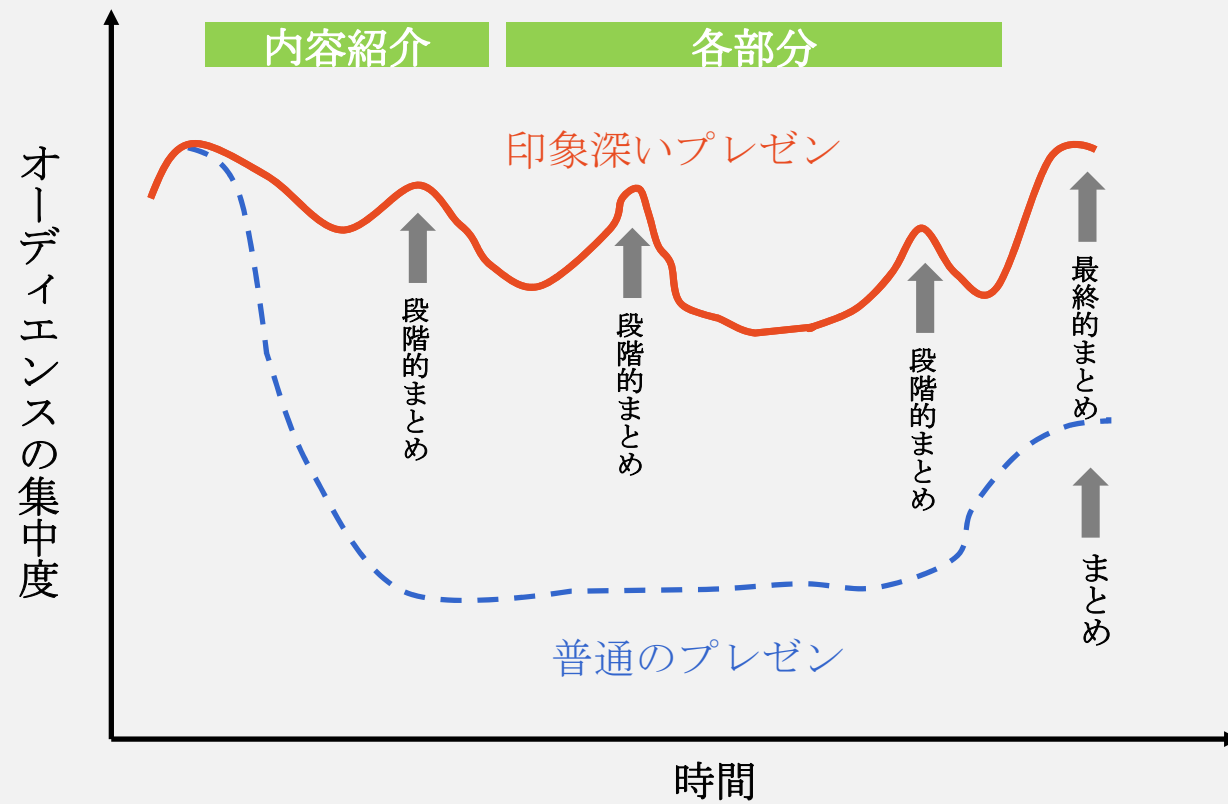
サイズの統一

色合いの統一

テーマの統一

ユニットの統一

### 3 オーディエンスの気を引くこと



## 4 パワポを派手にしすぎないこと

オーディエンスに伝えたい情報を覚えてもらうのが肝心！



# 四つの原則

- 1 パワポを原稿として扱わないこと
- 2 パワポを一つのシステムに統一すること
- 3 オーディエンスの気を引くこと
- 4 パワポを派手にしすぎないこと



# 2

## 図表などの活用

# 図について

## ◆図の基本処理（トリミング、効果、透明度）

## ◆図とテキストの組み合わせ

- 図の空白にテキストを置く
- 塗りつぶしを使う
- 文字のサイズを調節する
- アイコンの適用

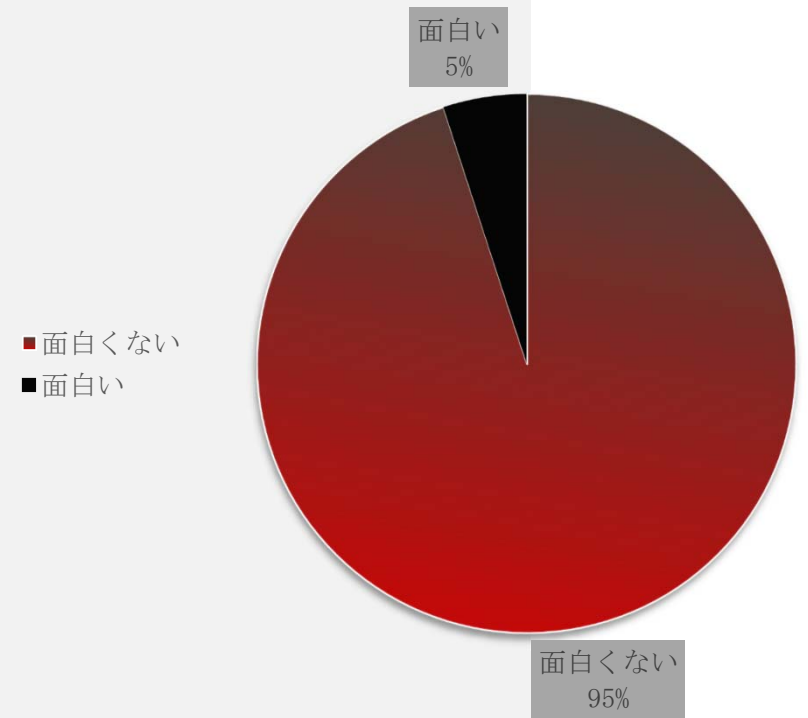
## ◆必要な図の入手方法

- <https://www.istockphoto.com/jp>



## 図表について

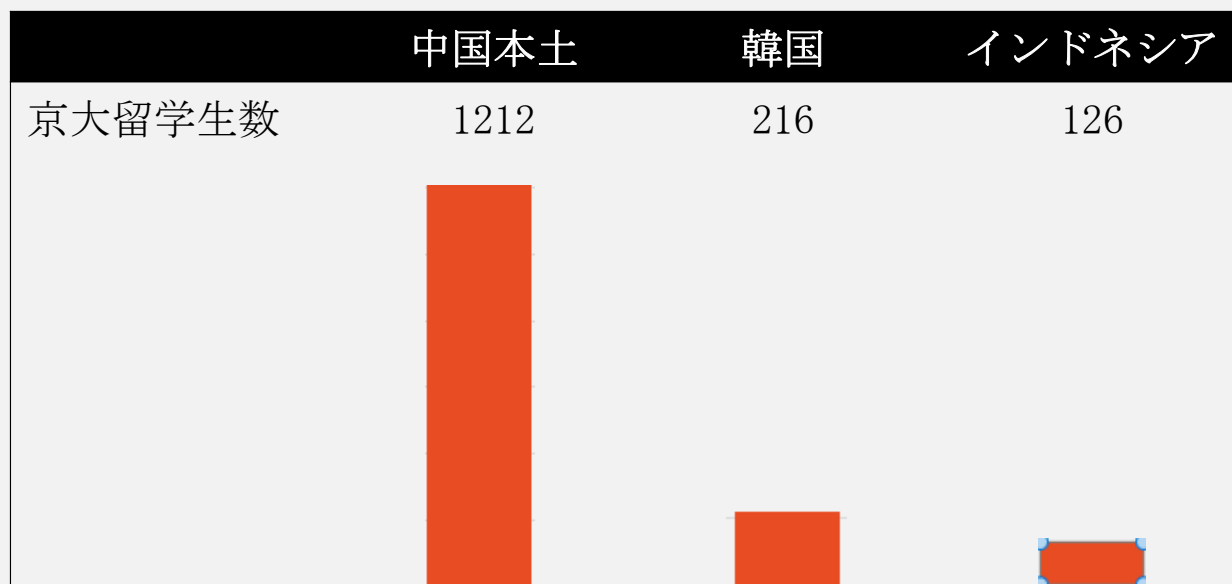
- ◆目的によるグラフの挿入と選択
- ◆テキストとの色合いの統一
- ◆SmartArtの活用、可視化する



95%のパワポは面白くない

## 可視化の一例

	中国本土	韓国	インドネシア
京大留学生数	1212	216	126



# 3

## レイアウトの工夫

# 例 1

## ホワイトカラーのラジオ鑑賞について

- ホワイトカラーは音楽、娯楽とニュース番組をよく聞く
- 80%以上は自宅でラジオを鑑賞する。
- 音楽とニュース番組は人気がある。その中、ポップが一番人気がある。
- 「よく聞く」と「たまに聞く」人が多い。
- 毎日の平均的鑑賞時間が約72分間である。
- 朝出勤前の時間帯が一番多い。その次は夜退勤後である。



## ホワイトカラーのラジオ鑑賞について

1 鑑賞目的 音楽、娯楽とニュース番組 .....	4 鑑賞頻度 「よく聞く」と「たまに聞く」人が多い .....
2 鑑賞場所 80%以上は自宅 .....	5 鑑賞時間 毎日の平均的鑑賞時間が約72分間である。 .....
3 番組好み 音楽とニュース番組は人気がある。その中、 ポップが一番人気がある。 .....	6 鑑賞時間帯 朝出勤前の時間帯が一番多い。その次は夜退 勤後である。 .....

# 例 2

## 作家の名言

死んだ時に人を悲しませないのが、人間最高の美德さ。

——川端康成

僕らはとても不完全な存在だし、何から何まで要領よくうまくやることなんて不可能だ。不得意な人には不得意な人のスタイルがあるべきなのだ。

——村上春樹

## 作家の名言

---

死んだ時に人を悲しませないのが、人間最高の美德さ。

——川端康成

僕らはとても不完全な存在だし、何から何まで要領よくうまくやることなんて不可能だ。不得意な人には不得意な人のスタイルがあるべきなのだ。

——村上春樹



# 例 3

## AIプロダクトを支えるAI技術の進展

現在は「第三次AIブーム」と呼ばれ、研究開発や投資が活発だが、その火付け役は深層学習（ディープラーニング）と呼ばれるAI技術である。ディープラーニングの登場とその後のさらなる研究開発により、画像認識、音声・言語認識、文章生成、長文の意味理解、ロボットなどの運動の習熟など、実用的に応用できる範囲が拡大した。

さらに、昨今のIoT（モノのインターネット）関連技術の発展により、AI技術の活用分野も広がりをみせている。自動運転、金融、製造業などに加えて、健康・医療・介護（ウェルネス）、行政、教育・学習（人財）といったサービスに関連する事業領域でもAI技術の活用が始まっている。

## AIプロダクトを支えるAI技術の進展

現在は「第三次AIブーム」と呼ばれ、研究開発や投資が活発だが、その火付け役は深層学習（ディープラーニング）と呼ばれるAI技術である。ディープラーニングの登場とその後のさらなる研究開発により、

- 画像認識、
- 音声・言語認識、
- 文章生成、
- 長文の意味理解、
- ロボットなどの運動の習熟

など、実用的に応用できる範囲が拡大した。

さらに、昨今のIoT（モノのインターネット）関連技術の発展により、AI技術の活用分野も広がりをみせている。自動運転、金融、製造業などに加えて、

- 健康
- 医療
- 介護（ウェルネス）
- 行政
- 教育
- 学習（人財）

といったサービスに関連する事業領域でもAI技術の活用が始まっている。

# レイアウトを簡潔にするには

- 1 分類
- 2 合わせる
- 3 対比



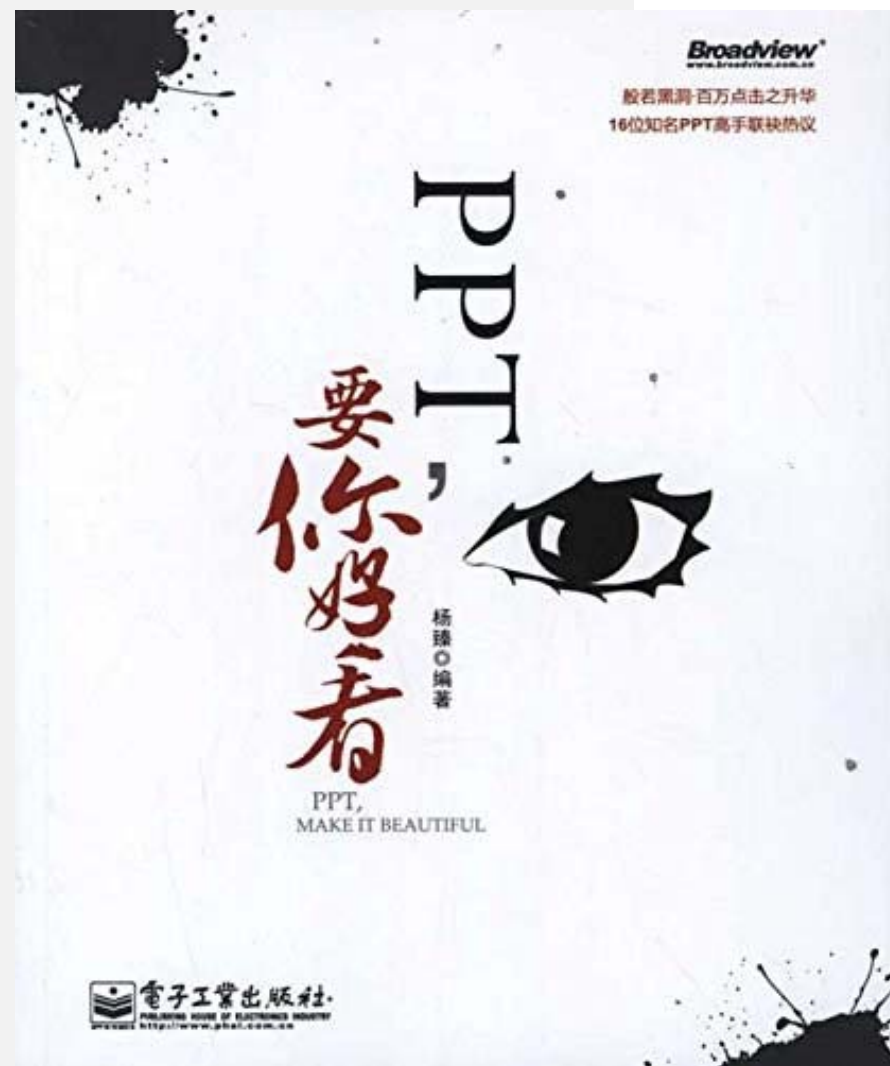
# 参考文献

『PPT,要你看』

作者: 杨臻

出版社: 电子工业出版社

出版年: 2012-1-1



**ご清聴ありがとうございました。**

